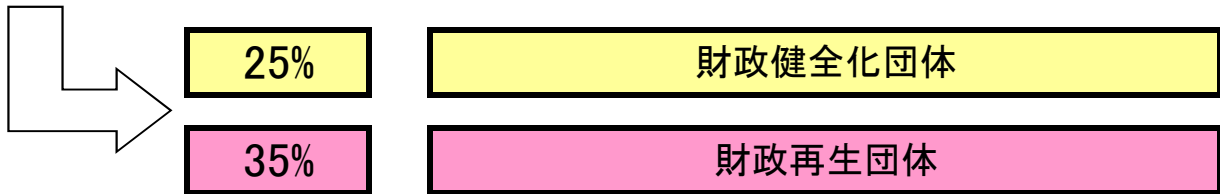


健全化判断指標③

実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3ヶ年平均）

準元利償還金・・・繰出金（一般会計等→企業会計）中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



熊本市の実質公債費比率

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費 (元利償還金・準元利償還金等)} - \text{充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模 (臨時財政対策債を含む)} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

H24	$\frac{40,596}{158,051}$	$-\frac{26,277}{19,658}$	=	10.35%	} 3ヶ年平均 11.1%
H23	$\frac{41,317}{152,134}$	$-\frac{25,862}{19,256}$	=	11.63%	
H22	$\frac{40,324}{145,712}$	$-\frac{25,691}{18,848}$	=	11.53%	

早期健全化ライン（25%）を下回っている